

ヨブ記・伝道者の書

— 苦しみの日に —

見よ。

神が私を殺しても、

私は神を待ち望み、

なおも私の道を神の御前に主張しよう。

神もまた、私の救いとなってください。

ヨブ記 13章 15-16 節



目次

さあ始めましょう —手引の使い方—	v
この手引のまえがき	1
第一部 ヨブ記	3
はじめに	5
1 課 ヨブのわざわい 1-3 章	6
A ヨブについて 1:1-5	6
B 第一のわざわい 1:6-22	6
C 第二のわざわい 2:1-10	7
D 三人の友人の来訪 2:11-13	8
E ヨブの心境 3:1-19	8
2 課 第一回目の友人との対話 4-14 章	10
A テマン人エリファズとの対話 4-7 章	10
B シュアハ人ビルダデとの対話 8-10 章	13
C ナアマ人ツォファルとの対話 11-14 章	16
3 課 第二、第三回目の友人との対話 15-31 章	19
A 仲裁者への期待	19
B 神と直接論じ合いたい	23
4 課 エリフとの対話 32-37 章	25
5 課 主との対話 38-41 章	27
A 主の答え 38-39 章	27
B 主とヨブとの対話 40-41 章	28
6 課 結末 42 章	31
ヨブ記と伝道者の書	35
第二部 伝道者の書	37
はじめに	38
1 課 序論 1:1-11	40

表紙イメージ:

ギユスターヴ・ドレ『ヨブと友人たち』(ヨブ記 2:11-13) <部分>

1832-1883 年 エッチング "The Doré Bible Illustrations" より

さあ始めましょう

— 手引の使い方 —

この手引は、グループでの聖書研究や個人の学びと祈りのために作られました。

グループ聖研の場合の指針

1. 司会者

グループの中で司会者を決めましょう。司会者は、手引にそって質問をする人です。参加者の意見を引き出し、参加者同士が話し合えるよう励まします。また司会者は、どのような意見でもその是非を判断せず、聖書箇所解説や、意見の相違を解決する必要はありません。司会はできれば交代で行います。

2. 参加者

お互いの意見を尊重して、考えたことを率直に分かち合い、学んでいる聖書箇所から語り合しましょう。また、脱線しないように気をつけましょう。

3. 学びの時間

グループの状況や必要に応じて調節してください。

4. 「考えよう」

各セクションの最後にある「考えよう」の質問は、状況に応じ、選んでお使いください。

5. 「祈り」

祈りの文章は、これを参考にしながら、それぞれの祈りを加えたり、数人の方に祈ってもらった後に、書かれた祈りで学びを閉じたりするなど、グループの状況に合わせて使ってください。

5. 解釈の違い

解釈の違いがある場合は、教会の教職者・指導者の立場を尊重してください。

2 課 第一の勧め 1:12-2:26	41
A 知恵 1:12-18	41
B 快楽〔喜び〕と労苦 2:1-11	41
C 知恵と愚かさ 2:12-17	42
D 後継者と悲痛 2:18-23	42
E 第一の勧め 2:24-26	42
3 課 第二の勧め 3:1-15	44
A ふさわしい時を見極める 3:1-11	44
B 第二の勧め 3:12-15	45
4 課 第三の勧め 3:16-22	48
A 不正について 3:16-17	48
B 死について 3:18-21	48
C 第三の勧め 3:22	49
5 課 第四の勧め 4:1-6:7	50
A 虐げや金銭などについて 4:1-5:17 (4:1-5:16)	50
B 第四の勧め 5:18-20 (5:17-19)	51
C 日の下の悪しきこと 6:1-7	51
6 課 第五の勧め 6:8-9:1	53
A 知恵の限界 6:8-12	53
B 知恵は愚かさにもさる 7:1-12	54
C 不条理な人生 7:13-8:14	54
D 第五の勧め 8:15	56
E 神のみわざ 8:16-9:1	56
7 課 第六の勧め 9:2-10	57
A 死について 9:2-6	57
B 第六の勧め 9:7-10	57
8 課 第七の勧め 9:11-11:10	59
A 知恵について 9:11-11:6	59
B 第七の勧め 11:7-10	60
9 課 結末 12:1-14	61
「伝道者の書」の学びを終えて	64

凡例

() この手引は「聖書 新改訳 2017」(以下、新改訳)に準拠しています。
() は「聖書 聖書協会共同訳」(以下、共同訳)の表記で、新改訳聖書と大きく違う場合に記しています。聖書箇所略式表示は、新改訳聖書巻末の一覧に従っています。

例) イザヤ書 45 章 18 節 → イザ 45:18

脚注 下線のある言葉は、各ページの下(脚注)で解説されている用語です(例:ヨブ^a)。脚注にある聖書箇所は確認のためのもので、聖研では開く必要はありません。

注) 質問のあとに、必要な注が記してあります。

コラム まとまった説明がされている用語です。

コラムのテーマとページ

復活信仰	24
ヘンデルのメサイヤとヨブ記 19:25	30
新約聖書とヨブの忍耐	34
今日を生きよ	46
いのちの息	47

この手引のまえがき

旧約聖書の中で、神は、ご自身とその御旨を様々な方法で示されました。それは、律法を与えること、実際に歴史に働きかけること、また、預言者をとおして民に語ることなどでしたが、知恵も神がご自身を啓示する一つの方法です。ヨブ記と伝道者の書は、知恵を主題にした書の一つです。

創造の秩序と知恵

神は、ご自身の知恵によって世界と人間を造られました。複雑で有機的で美しく造られた世界の背後には、神の知恵によって定められた創造の秩序があります。それは、ふさわしい時に種を蒔けば、より豊かな実りを得るといった自然界の秩序をはじめ、勤勉であれば豊かになり、神を敬って正しい生き方をすれば幸せになり、悪しき者は裁かれるといった、人間の生き方に至るまで、世界全体を支えている秩序です。この秩序を探求した結果が知恵文学です。箴言はその典型的なものです。

秩序の歪み

しかし、アダムとエバが神に反逆して以来、現実には複雑になりました。正しい人が苦しみ、悪者が栄えるという不条理な現象が生じたのです。そのような、「秩序の歪みによってもたらされた不条理な現実」に取り組み、答えを得ようとしたのがヨブ記と伝道者の書です。

古代の信仰者だけの問題ではなく、現代に生きる私たちにも、同じ問いが投げかけられています。なぜ、正しい人が苦しまなければならないのか、苦しみの中で、信仰者はどのように生きていけばよいのか。ヨブ記は前者の「なぜ」、伝道者の書は後者の「どのように」という問いに焦点を当てています。ヨブ記と伝道者の書の声に耳を傾けてみましょう。

第一部

ヨブ記

ー正しい人がなぜ苦しむのかー

はじめに

ヨブ記は、旧約聖書の中で、特異な書です。まず、ヨブをはじめ、その友人もイスラエル人ではありません。出来事の背景もイスラエル国内ではなく、その東の地域です。初めと終わりは物語文ですが、その間に記された対話は練られた詩文です。背景となっているのは、アブラハム前後の時代ですが、この書が書かれた、あるいはまとめられた時期に関しては、学者の間で意見が大きく分かれています。そして何よりも特異なのは、そのメッセージです。旧約聖書は全体として「神を敬う正しい人は祝福される」と教えていますが、それと矛盾するかのように、「正しい人が理由もなく苦しむことがある」と語っているからです。

しかし、ヨブ記が旧約聖書の一部として加えられたということは、この書がイスラエルの人々にとって重要であり、必要であったことを示しています。

現代の信仰者にとってもヨブ記は重要です。「正しい人、また、敬虔な信仰者が苦しむことがある」という現実から目をそらすとき、ちょうどヨブがそうであったように、苦しむ信仰者が不当に責められることとなります。ひいては、私たちの信仰生活全体が不健康なものになっていきます。

ヨブ記から、この大切なメッセージを学んでいきましょう。

学びに入る前に

ヨブ記を読むときは、語り手が誰で、誰に向かって話しているかに注意を払いましょう。ヨブと友人たちは三回の対話をしますが、本手引では、繰り返しの多い二回目と三回目の対話は、詳しくは取り上げません。しかし、予習の際にはヨブ記全体を読みましょう。

1 課 ヨブのわざわい 1-3 章

A ヨブについて 1:1-5

- 1 ヨブはどのような人ですか。ヨブについて分かることをあげましょう。脚注参照^a
- 2 ヨブが子どもたちのためにしていたことから、ヨブについて分かるのはどのようなことですか。
- 3 神を恐れ〔畏れ〕るヨブにとって、避けるべき大きな罪は何だと思えますか。

B 第一のわざわい 1:6-22

- 1 ヨブへの主の評価はどのようなものですか。それに対してサタン^bは、ヨブの信仰をどのように見えていますか (1:6-10)。神の子ら^c
- 2 サタンはヨブにどのような罪を犯させようとしていますか (1:11)。
- 3 主はサタンにどのようなことを許しましたか (1:12)。
- 4 ヨブの牛、ろば、そして若い者^dに何が起こりましたか (1:13-15)。シェバ人^e

^a ウツの地：エドム、あるいはアラムの地域とされている。
東の人々：アラム人、エドム人、モアブ人、アンモン人など、イスラエルの東の諸民族を指す言葉。

^b サタン：「敵対する者」の意。

^c 神の子ら：ここでは、神に仕える天使を指す。

^d 若い者：1:3 のヨブが所有していたしもべを指す。

^e シェバ人：アラビア半島の王国の人々。ただし、北アラビアの部族を指すという説、あるいは、カルデア人と共に、遊牧民の代名詞だったという説もある。

- 5 ヨブの羊、らくだ、そして若い者たちに何が起こりましたか (1:16-17)。カルデア人^a
- 6 ヨブの子どもたちに何が起こりましたか (1:18-19)。以上の結果を 1:2-3 と比べてみましょう。
- 7 1:2-3 に記されていた祝福のすべてを失ったヨブはどのように応じましたか (1:20-22)。脚注参照^b
- 8 ヨブは、「主は与え、主は取られる」と言って、このわざわいが神からのものと認めています。もしあなたが、ヨブのように突然の不幸に襲われたとしたら、その原因をどのように考えますか。

C 第二のわざわい 2:1-10

サタンは、「ヨブは理由もなく神を恐れているのでしょうか」(1:9) と、ヨブの誠実さを疑い、すべての財産を奪いました (1:9-11)。

- 1 ヨブに対する主の評価はどのようなものですか (2:1-3)。
- 2 それに対してサタンは、ヨブの信仰をどのように見えていますか (2:4-5)。
- 3 主の許可のもとに、何が起こりましたか (2:6-8)。
- 4 ヨブの妻は、何と言いましたか (2:9)。それはヨブとサタンにとってどのような意味があったと思えますか (1:5、11 参照)。
- 5 主にすべてを奪われた夫を見て、あなたならば、どのように応じるでしょうか。

^a カルデア人：南バビロニアのペルシア湾沿岸の地方の人々。後に、バビロニア人と同義語となる。ここでは、遊牧民の代名詞だったという説もある。

^b 上着を引き裂き、頭を剃り：どちらも、嘆きの表現。

- 6 ヨブは起こった出来事をどのように受け止めていますか (2:10)。
- 7 「わざわいをも受けるべき」というヨブの考えをどう思いますか。

D 三人の友人の来訪 2:11-13

- 1 ヨブを訪ねてきた友人は誰ですか。ヨブの身に降りかかったわざわいを目の当たりにして、どうしましたか (2:11-13)。脚注参照^a
- 2 ヨブの友人たちは、どうして七日間も「一言も彼に話しかけなかったのだ」と思いますか。友人たちの気持ちが理解できますか。あなたなら、どうしたと思いますか。

E ヨブの心境 3:1-19

- 1 ヨブは何を願っていますか。3:1-10 を要約してみましょう。
- 2 次の3:11-19はどうでしょうか。要約してみましょう。脚注参照^b
- 3 ヨブは3:20-26で自分のことをどのように表現していますか。
- 4 あなたはヨブの心境をどう思いますか。あなたがヨブのような苦しみにあったなら、どのように感じるでしょうか。

^a テマン人：エサウの子孫となる（創 36:9-11）、エドム人の一氏族。
 シュアハ人：アブラハムの妻ケトラの子の子孫（創 25:1-2）。アラムの中のユーフラテス川沿いの地域に住んだ。
 ナアマ人：北西アラビアかエドムの町の住民。トバル・カインの妹と関係があるとされている（創 4:22）。
 ちりを天に：哀悼の表現。

^b 眠って安らいでいた：3:13-19は死後に行くよみ（陰府）の世界を描いている。
 p.24 コラム「復活信仰」参照。

まとめ

「ヨブは理由もなく神を恐れているのでしょうか」と、サタンは主に問いました。「ヨブは、財産と子宝に恵まれ、健康で、わざわいから守られているから信仰を保っているのだ」とサタンは主張したのです。サタンは、神の許可のもとにヨブのすべてを奪います。しかし、それでも、神を恐れる〔畏れる〕ヨブの信仰は揺るがず、告発者であるサタンは舞台から退きます。

しかし、ここから、ヨブ記の中心のテーマが始まります。神とサタンのやりとりを知らされていないヨブにとって、突然のわざわいは、いわれのないことでした。ヨブは生まれた日を呪い、死を願うほどの痛みと苦しみの中で、正しい者がなぜ苦しまなければならないのかを問いかけていくこととなります。

考えよう

「ヨブは、わざわいから守られているから信仰を保っているのだ」とサタンは訴えました。今も人々は、交通事故や病気から守られることを願って神に祈ります。しかし、ヨブは、わざわいを下した神をも信じ敬い続けました。私たちが神を信じ、恐れ〔畏れ〕る理由は何でしょう。私たちが信じている神は、天地万物の創造者であり、全能者である方でしょうか。

祈り

天地の造り主である神よ、私たちが、自分の願う神のあり方を描くのではなく、聖書が示すまことの神を知り、信じることができますように。